

山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

明日を拓く — 成果を検証する —

1



平成30年度 第71回山口県学校美術展 推奨作品

『みんなの八幡宮』

下松市立花岡小学校 6年(受賞時) 西村 心結

◎第18回やまぐち教育の日 柳井大会 第47回教育県民大会

大会概要

下関支部 副支部長 高村 彰一
防府市立華城小学校 校長 金本 正之

■第32回「金子みすゞ賞」童謡詩入賞作品

神奈川県横浜市 山田 裕樹
周南市市立和田中学校 校長 中村 浩

■第11回「わたしの志」作文入賞作品

公益財団法人松風会 事務局長 水津 英三
萩市立明倫小学校 6年 宮内 若菜

■わたしの潤い

下松支部 相本 尚志
豊浦支部 徳吉 朗子

■教職時代を偲ぶ

萩支部 河上 克己

あなたのアクションは…

山口県教育会がすすめる
「元氣やまぐち」三つのアクション

- ◎あいさつ 返事で 明るいやまぐち
- ◎笑顔でつなぐ 安心やまぐち
- ◎ゴミ 落書きのない 美しいやまぐち

一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykoyoikuk.or.jp> E-mail ykoyoikuk@ruby.ocn.ne.jp

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長：倉増誠彦／編集長：山本晃久

第18回やまぐち教育の日・第47回教育県民大会 柳井大会



月性剣舞 演目『壁に題す』



阿月子ども神明太鼓 演目『海 (かい)』



合唱『柳井の歴史』柳井混声合唱団
曲目『柳井に吹いた維新の風』



伊陸神楽 演目『湯立・砂水』

第一部 柳井の伝承活動の紹介

大会主題 「明日を拓く」 あす ひら

「伝えたいふるさと・つなげる絆」

期 日 十一月十六日(土)
会 場 アクティブやない



「金子みすゞ賞」童謡詩

最優秀賞の録音
による作品朗読
入賞者氏名は
4 ページに掲載



「わたしの志」作文

入賞者氏名は
5 ページに掲載

入賞者表彰及び朗読



来賓祝辞
山口県教育委員会教育長
浅原 司 様



大会会長挨拶
倉増 誠彦 様



来賓祝辞
柳井市長
井原 健太郎 様



来賓祝辞
山口県議会議長代理
山口県議會議員
有近 眞知子 様

開会行事



開催支部挨拶
柳井支部長
吉浦 正明



次回開催地区挨拶
下関支部長
田上 文雄

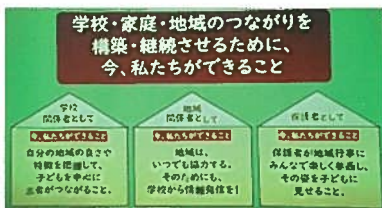
閉会行事

【登壇者】

- ・柳井南中学校長 秋田 和美
- ・伊陸小学校学校運営協議会委員 三浦 寿子
- ・柳東地区連合自治会長 中田 達生

【コーディネーター】

- ・柳井市教育委員会学校教育課 課長補佐 中西 淳



【講評】

- ・山口県教育庁義務教育課 教育調整監 藤井 一憲
- ・(一社)山口県子ども会連合会 常務理事 田中 円城

学校・家庭・地域の連携を語る
「わたしたちができることは……」

第三部 討論会

この言葉に導かれて始まった「ふるさと再発見」。一時期のブランクを経て再スタートしました。その取組の近年五年間の様子が「柳北小」「柳東小」「目積小」「新庄小」「伊陸小」の各小学校区ごとにまとめられ映像により紹介されました。

柳井支部「ふるさと再発見(五年間)のあゆみ」

第二部 実践発表

地を離れて人なく、人を離れて事なし、故に人事を論ぜんと欲せば、先ず地理を観よ(吉田松陰)

ふるさとの歴史や文化を学ぶ・伝える



下関支部

副支部長 高村 彰一

晩秋のやわらかな日差しが白壁の町並みを一段と美しく輝かせる中、第十八回やまぐち教育の日・第四十七回教育県民大会が商都柳井市で開催されました。『明日を拓く』と伝えたいふるさと・つなげる絆の大会主題の下、県下多くの参加者が集いました。

オープニング「柳井の伝承活動の紹介」では、「阿月子ども神明太鼓」「伊陸神楽」「月性剣舞」を柳井市の小中学生が発表し、地域の歴史や文化をしっかりと受け継いでいる姿に感銘を受けました。

「金子みすゞ賞」童謡詩と「わたしの志」作文の表彰と朗読。童謡詩「もも」は、作者の豊かな感性と自然を愛おしむ心が伝わってきました。作文「わたしの小さな志」には、使い続けた「もの」に宿る人々の思いに、作者が心引かれていく様子がうかがわれ、自分のためではなく、人の心を癒やす、人の役に立つ存在になりたいという言葉の中に「大きな志」を感じました。彼女の今後の成長に心から大きな声援を送りたいと思います。

柳井支部の取組「ふるさと再発見のあゆみ」では、会員自らが市内各小学校でそれぞれの地域の歴史や良さを伝える出前授業を積極的に行って、「学ぶ楽しさ」を伝え、「ふるさとを愛する心」を育み、「文化をつなぐ」活動を五年間積み重ねてきたことが発表され、他地域での会員の活動に勇気を与えてくれました。

最後の討論会では、進行役のコーディネーターの軽妙な司会で、聴衆からも質問・意見が相次ぎ、「学校・家庭・地域のつながりを構築・継続させるために、今わたしたちにできることは何か」について、本音や愚痴を交えながら知恵を出し合うすばらしい機会となりました。参加者の熱い思いを強く感じました。

来年度は、長い歴史や豊かな農海産物で彩られた下関市で開催します。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。



伝承やつながりを強く感じた大会



防府市立華城小学校

校長 金本 正之

秋のセピア色の日差しに美しい白壁が生える柳井市で、令和最初のやまぐち教育の日、教育県民大会が開催されました。

第一部の「柳井の伝承活動の紹介」では、「阿月子ども神明太鼓」「伊陸神楽」「月性剣舞」「合唱『柳井の歴史』」が披露されました。地元の伝統芸能や文化が小中学生にも脈々と受け継がれており、伝統を大切にしている風を感じることができました。披露された「伊陸神楽」の演奏者の中に本校の教員がいたことは、ちよつとしたサプライズで、地元にもしっかりと貢献している姿を見て嬉しくもあり、頼もしくもありました。

開会行事後半には、「金子みすゞ賞」童謡詩と「わたしの志」作文の表彰と朗読がありました。「わたしの志」作文では、六年生の児童が、粘土で作るミニチュアを今は趣味にしているが、将来は人に喜ばれるようなミニチュア職人になりたいという夢をもち、こんなこととしてみたい、あんなこととしてみたいと次から次へと広がる発想が、とても具体的ですばらしかったです。

第二部では柳井支部の「ふるさと再発見（五年間）のあゆみ」と題して実践発表があり、地域を知り、伝えていく地道な活動の大切さを改めて感じることができました。

第三部は「学校・家庭・地域の連携を語る『わたしたちにできることは…』」と題した討論会が行われました。それぞれの登壇者が学校、家庭、地域の立場から「子どもたちに伝えたいこと」や「つながりを構築・継続させるためにできること」などを本音で語り合い、迫力のある討論会となりエネルギーをいただきました。

実りの秋にふさわしく、心にとくさんの収穫物のあった大会でありました。素敵な大会を企画・運営してくださった柳井支部の皆様をはじめ関係各位に心から感謝申し上げます。

第32回「金子みすゞ賞」童謡詩入賞作品

最優秀 山口県教育委員会教育長賞

もも



神奈川県横浜市
山田 裕樹

ほんのり香るもの実が
あたまの上でゆれている
高くともとどかない
うすいきいろが甘そうだ
パパママほくとあーちゃん
おやつにもを食べたいな
ぼくがじょうずにむいて
おやつにみんなで食べたいな
けれどもつぎの日も実
地めんにおちてわれちゃった
ももは地めんでない
ぼくもいっしょにいない
けれどもつぎの日も実
なみだをなめるダンゴムシ
カメムシカナブンアリも来て
みんなでもをなぐさめる
ももは地めんであらう
ぼくもいっしょにあらう

最優秀 山口県教育委員会教育長賞

「もも」

山田 裕樹
神奈川県横浜市

優秀 山口県教育委員会教育長賞

小学生の部
「ちあき」

新井 咲樹

光市立島田小学校 一年

中学生の部
「父のいない朝」

河野 幸大

長門市立仙崎中学校 一年

高校生・一般の部
「つばめの赤ちゃん幸せはこぶ」

北山 良典

岡山市立岡山市

学校賞

柳井市立柳東小学校（校長 長友 義彦）

佳作

「おばあちゃん」

中村 瑞姫

下松市立公集小学校 一年

「コスモス」

木村 心咲

萩市立佐々並小学校 三年

「ありがとう」

木下 小綾

下松市立公集小学校 五年

「自分」

河本 礼二

柳井市立柳東小学校 六年

「どこまでもどこまでも」

藤村 和慶

山口市立小郡中学校 一年

「はなやさんで」

大久保 愛芽

山口市立小郡中学校 一年

「月」

深水 美空

長門市立仙崎中学校 一年

「ずっと一緒に」

池田 あい

山口県立山口高等学校通信制

「いつか かあさんと」

駿河 富子

埼玉県桐生市

「だあれのものでもありません」

感王寺 美智子

福岡県朝倉市

最優秀及び優秀作品は、(一財)山口県教育会のホームページに掲載しています。四百二十七編の応募がありました。

第32回「金子みすゞ賞」童謡詩 審査講評



周南市立和田中学校
校長 中村 浩

言葉には、自分の思いや考えを表現し定着させる働きと、自分以外の他者に伝える働きがあります。こうした言葉の相反する二つの面の微妙なバランスをクリアさせることが、言葉を紡ぐ上で大事になってきます。

第三十二回「金子みすゞ賞」には昨年度を大きく上回る四百二十七編の応募があり、童謡詩という形式で自分を表現する方が増えていることに心強さを感じます。

本年度の最優秀は一般部門の山田裕樹さんの「もも」です。おやつに食べたいと思っていた「ももの実」は、「地めんにおちてわれて」しまっています。落ちた「もも」も、「ぼく」も不幸な出来事に「なっている」のですが、「ももの実」のなみだをなめる「ダンゴムシ」が登場します。続いて他の虫も「もも」をなぐさめます。その結果「もも」も「ぼく」も「いっしょにあらう」しまうのです。人間からの一方的な視線ではなく、ももを享受する虫たちへの優しいまなざしが素敵です。また、「カメムシカナブンアリも来て」というリズムにも感心しました。

小学生の部の優秀賞は一年生の新井咲樹さんの「ちあき」です。詩は作者の弟の名前である「ちあき ちあき」で始まります。弟の身体や存在を「ふわふわ」という優しい言葉で表現し、リズムよく一気に読ませます。弟を可愛がっている作者と無邪気に踊っている弟の姿が目につくかぶようです。思わず読み手が笑顔になります。

河野幸大さんの『父のいない朝』は中学校の部の優秀賞です。毎日聞いている「元気な父の声」がしない朝。「父」が入院して、「犬もぼくも弟も／家族みんながおとなしく」なります。作者はそんな朝の様子を、みすゞさんも眺めたに違いない「朝の静かな海のように」と喩えています。なくなつてから初めて気づく当たり前の日常の大切さが伝わってきます。

詩を作ることは、言葉を通して自分を発見することです。読み手も詩を読むことで違う自分に出会えます。

第11回「わたしの志」作文入賞作品

最優秀 山口県教育委員会教育長賞

「わたしの小さな志」

宮内 若奈

萩市立明倫小学校 六年

優秀 山口県教育会長賞

小学生の部

「武道を通して学んだこと」

田中 碧一

萩市立明倫小学校 六年

中学生の部

「夢はあこがれの薬剤師」

玉本 真子

周南市立岐陽中学校 三年

高校生の部

「信頼されること」

後藤 琳

柳井学園高等学校 三年

優秀 松風会理事長賞

「強く、優しく、美しく」

新田 桜

柳井学園高等学校 三年

佳作

「体と心がすぐえる医師を目指して」

川原 悠雅

美祢市立大嶺小学校 五年

「りっぱな大工さんになる」

藤山 源生

萩市立育英小学校 五年

「伝統を受け継ぐために」

野坂 佳右

萩市立白水小学校 五年

「平和への道」

竹内 光

萩市立明倫小学校 六年

「手紙からもらった志」

川上 陽愛

下松市立末武中学校 二年

「私の志」

青木 海橙

萩市立萩西中学校 二年

「声よ届け!」

佐々木 遙

周南市立岐陽中学校 三年

「KB」

竹本 日向

山口県立周防大島高等学校 二年

「私の志す白衣の天使」

川中 恭香

柳井学園高等学校 三年

最優秀及び優秀作品は、(一財)山口県教育会のホームページに掲載しています。
八百二十七編の応募がありました。

第11回「わたしの志」作文 審査講評



公益財団法人松風会

事務局長 水津 英三

「わたしの志」作文には今回も多く応募があり、校種にふさわしい志が力強く表現されており、胸打つ作品にあふれていました。

最優秀賞の「わたしの小さな志」は、写真が何百枚あっても伝わらない、立体感のある思い出を表すことができるミニチュア作りへの思いが、読んでうれしくなるような表現で書かれています。自分を取り巻く人たちの心を動かしたい筆者の熱い思いが伝わってきます。

小学生の部優秀賞「武道を通して学んだこと」は柔道と相撲に取り組んでいる体験から、型を通して礼儀を尽くす日本の伝統を引き継いでいく決意が力強く書かれています。勝敗が重視されがちな世界で、武道がめざすものとは何かを考えさせる作品となっています。

中学生の部優秀賞「夢はあこがれの薬剤師」は職場体験、作者自身の体験と難病を抱える妹への思いとをからめ、自分がめざす薬剤師への夢が力強く述べられています。これから増えていくであろう外国人の患者にも思いをはせた志に期待を持たせる内容となっています。

高校生の部優秀賞「信頼されること」は、誰からも信頼される人になりたいという思いから自分自身を見つめ直し、信頼される看護師をめざす夢が語られています。看護師にとって求められるものは何かを問い求め、自問する姿は並々ならぬ決意を感じさせます。

松風会理事長賞「強く、優しく、美しく」は看護実習での体験、高校生活での悩みなどを通して、日頃意識しないと気が付かない母親の存在のありがたさに気づく様子をみずみずしく書き上げています。松陰が千代宛書簡の中で「親族を睦まじくする事大切なり」と述べていることに通じるものがあり、松風会理事長賞にふさわしい作品となっています。

今回も自分のためだけでなく、身近な人、強いては社会のために役立ちたいという志を読み取ることができ作品が数多くありました。

しかしながら、すばらしい志を書き上げていながら文字数や、推敲不足など、応募条件を満たさない作品もあり、残念でした。一層の努力を重ねた、高まりのある志作文を期待したいものです。

第11回「わたしの志」 作文最優秀作品

最優秀

山口県教育委員会教育長賞

わたしの小さな志



萩市立明倫小学校 六年

宮内 若奈

私の趣味は、粘土でいろいろなもののミニチュアを作ることです。三年前から、ハンバード、スパゲッティ、クロワッサン、タルトなど直径二〜三cmサイズのミニチュアをたくさん作ってきました。より本物に近く見せるために、つまようじ、ししゅう針、歯ブラシ、アルミホイルなど身近なものを道具にして細かいところを仕上げたり、絵の具のぬり方を工夫してわざと色ムラをつけたりしていると、もう楽しくて楽しくて、あつという間に時間が過ぎてしまします。また、作ったミニチュアをかごに入れたり、布をしいたり、作品がより素敵に見えるようにディスプレイするのも楽しみの一つです。

この大好きなミニチュア作りに、最近、新しい夢ができました。それは、将来、人に喜ばれるミニチュア職人になることです。ただ自分が作って楽しむのではなく、人の心をいやせるような誰かの気持の役に立てるような作品を作りたい

のです。

私がつ通っている明倫小学校は、ちょうど私が入学する時に新しい校舎になりました。古い校舎は残っているけれど、中の様子は少し変わってしまいました。古い校舎の中はどんな感じだったのでしょうか。私は前の明倫小学校をミニチュアにして残したかったな、と思います。ミニチュアには、どの角度からでも見ることができる、立体感があるので思わず手に取って見たくなるなど、よさがたくさんあります。写真からだけでは伝わりにくい魅力があるのです。私もし、古い明倫小学校のミニチュアを作るとしたら、こだわりたい所がたくさんあります。古い木造の感じを出すには、どの道具を使ってこすってみようか、使い込んだ手洗い場には実際に汚れたぞうきんが必要だな、朗唱が書かれたかけ軸も忘れてはいけない、など考えるだけでわくわくしてきます。

また他にも、私には作りたいミニチュアがあります。それは、壊す前の家の中の様子です。私の祖母は十年前に家を建て替えたのですが、新しい家になつてからもしよつ中、「昔の家の風景が忘れられない」と言います。私は、祖母の家もミニチュアで残してあげたかったです。タンスの傷も、かざっていた置物も昔のままに表現できたら、祖母の生きてきた人生がずっとつ

ながっているように感じられると思うのです。

ミニチュアは、写真が百枚あつても伝わらない、立体感のある思い出を表わすことができます。再現したものから、その場面にいる人の会話や音、香りまで思い出せるかもしれません。私の作ったものを見て、懐かしんだり、思い出を語り合ったり、思わず笑顔になる人が一人でも増えたら、うれしいなと思います。私が作ったミニチュアが人の心を動かすきっかけになるような職人に、私はなりたいです。



野鳥の美しさに魅せられて



下松支部

相本 尚志

私が野鳥に興味を持ったきっかけは、教員時代、部活動や生徒指導に疲れた時、一人でぶらっと寂地山に登り瑠璃色の鳥に出会ったことです。それまでは、小学時代に飼育したカナリアとジュウシマツ、野鳥はカラスやスズメと鳥もちで捕まえたメジロぐらいでした。

遊び場は、近くの田んぼや海や山でしたが野鳥にはあまり関心がありませんでした。

中・高時代にはテニスに明け暮れ、大学時代は理科教師を目指して実験や実習に追われ、野外に出る機会は少なくなりました。大学卒業後、理科ではなく数学教員に採用されました。理科教師への思いもあり、暇をみつけて、気分転換を兼ねて昆虫や花の写真撮影に野山に出かけました。

その時見かけた瑠璃色のオオルリの美しさに魅せられて、自分の鳥類図鑑の制作を目標にしましたが、現役時代はそれどころではなく、本格的に打ち込めたのは、仕事をリタイヤして時間のゆとりが少しできた六十歳を過ぎてからです。

当初は、写真を撮ろうと思っても野鳥は思うように姿を現してはくれませんでした。何度も失敗をする中で鳥の習性を知り、自分自身が自然

の一部となることで、鳥たちが撮影のポーズをとってくれるかのように姿を見せてくれました。

しかし、鳥の動きに追いつけず、鳥の目に焦点を合わせることができずピンボケばかりでした。今はカメラも進化し、レンズも五百ミリズームで飛翔する姿を撮れるようになりました。

現在、ブッポウソウやサンコウチョウを含め約百二十種類くらい撮影することができています。

今も、「二期一会」の渡り鳥や毎年渡ってくる冬鳥との出会いを楽しみに、自然と一体になって無心にカメラを構えています。



ミサゴ



カワセミ

私の好きなミサゴやカワセミは、卓越した能力を持った美しい魚のハンターです。

和の音色と潤い



豊浦支部

徳吉 朗子

高校生の頃に興味を持ったのがお箏でした。すぐに自分のお箏を持って、習い事として通わせてもらいました。それなのに、二、三か月でクラブ活動が忙しいという理由でやめてしまい、お箏は床の間の華となってしまいました。

退職間際になり、これからの人生の時間の使い方を思索し、自分の好きなことを全部ゆつくりやってみたいと思ったのです。レース編みに、毛糸編み、洋裁、刺し子、着付け。そして、一番やりたかった「お箏」。高価な楽器をそのままにしておいた罪悪感も相まってお箏への思いは高まる一方でした。そんな時に見つけた公民館での「お箏教室」。すぐに飛びつきました。

一から十の弦に斗、為、巾でなる十三弦のお箏は、ト音記号の楽譜ではなく、平調子、雲井調子などがあり、曲によって音階を作っていくかなければいけません。まだまだ耳で音階を聴きとることのできない私は、調弦器でひとつひとつ音を作っていきます。また演奏途中に、左手で弦を押さえ、一音高くしたり半音上げたり、箏柱（ことじ）を動かして音を変えたりという技も必要です。ほぼ初心者ですが、演奏する前も演奏中も大変で、必死です。家での練習、公民館教室での練習を重ね、どうにか成果を出

して、お箏教室のメンバーと発表会にも年六、七回出演することができるようになってきました。

私は、今お箏に魅せられています。ひとつの箏曲となつて聴こえてくるときの「和の音色」に達成感と充実感を感じています。その上、楽譜を見ながら、十三の弦を眼で追い、右手と左手を巧みに使いこなして弾いているのはなかなか脳の活性化につながっていると自己満足感もMAXです。

やりたいたいと思つた全部のことを現在進行中で挑戦しています。好きなことを好きな時間に好きなだけやれる喜びをかみしめながら、潤っている私です。



『箏友会』の仲間とともに（下関市長府公民館文化祭にて）

教職時代を偲ぶ



萩支部

河上 克己

海辺にある小さな小学校に新規採用教職員として赴任したのは三十七年前、豊浦町立室津小学校（現在の下関市立室津小学校）でした。四年生二十四人の学級担任。教頭先生や隣接学年の先生には、ずいぶんと迷惑をかけました。

学級は、男子六人、女子十八人で、幼稚園からメンバーは変わらず、いい意味でも悪い意味でもお互いに知らないことがない元気な集団でした。五年生も持ち上がりとなり、二年間続けてこの子たちと生活しました。男子はこぢんまりとまとまり、多勢の女子にやり込められていましたが、一人一人に存在感がありました。まさにズッコケ六人衆でした。

以来、学級担任になったのは僅か十四年。へき地複式校から大規模校の学級担任で、一クラスの人数は様々でしたが、子どもとふれ合い、泣き笑う一年間は、教員としての醍醐味でした。子どもが成長する速度にあわせて、学級担任として「伴走」したおかげで、先生と呼ばれる教員に少し近づけたような気がしています。さて、平成二十五年七月二十八日。萩市立育英小学校に勤務をしていたときのことです。山口北部・島根豪雨により、学校が壊滅的な被害を受けました。

二十八日昼過ぎ、教育委員会から突然電話がかかってきました。須佐地域が想定外の豪雨のため大変な被害を受けたということでした。すぐに対応しなければと思い、取り急ぎ学校に向かうと返事をしましたが、動いてはならないという指示でした。もどかしさの中で、とりあえず、全教職員への連絡や情報収集をすることに時間を費やしました。子どもたちの様子はどうか、到着したら何をするのかなど、たくさんの内容が頭の中を駆け巡りました。翌日、早朝、車で自宅を出発。益田市を通ってなんとか朝六時頃には学校に到着しました。地域の様子は一変しており、穏やかな美しい町が、茶色の土砂に一面覆われていました。学校も敷地全体にわたって大きな被害を受けていました。暑い夏でした。その日から毎日、復旧作業に取り組みしました。教育委員会の計らいで、たくさんの方の教職員ボランティアが来てくれました。のべ三百人にもなりました。子どもたちは幸いにも全員が無事で元気であることが分かり、何よりの朗報でした。子どもたちの自宅は、床下、床上浸水など、三分の一が何らかの被害を受けていました。

ところが、子どもたちは被害を受けながらも、地域のために何ができるかを考えて、ボランティアセンターなどで、復旧作業の手伝いをしていたのです。被災後も、担任の先生とともに、被災された方との交流、仮設住宅への訪問など、めざましい活躍をしてくれました。「縁、届け元気！」を合い言葉にみごとに復活してくれました。学校も、年度末までに運動場、給食共同調理場、体育館などが復旧し、その翌年に校舎全体の工事を終え、すべて復旧を完了することができました。

平成二十七年一月十一日、子どもたちの活動が認められ、「ぼうさい甲子園」で「はばタン賞」を受賞しました。子どもたちの「つたえる」「つながる」「つくる」という熱い思いが受賞につながりました。

私の教職人生は、子どもたちがいて、先生方がいて、保護者・地域の方がいて、すべての皆さんがピンチをチャンスに変えてくださいました。こんな幸せなことはありません。「人間万事塞翁が馬」ですね。



支部長会

十二月六日 教育会館

（一財）山口県教育会二十八支部の支部長に集まっていたいただき、地域活動や事業について、さらに年度末、年度初めに向けた事務手続き等について協議しました。

一 発表「特色ある地域活動について」

○山口大学メンネルコールOB会

片山 滋代表により「OB会の沿革や小中学校での巡回演奏並びに合唱ボランティア活動」について説明いただき、25名のメンバーとともに、すばらしいハーモニーと迫力の男声合唱をご披露くださいました。



○萩支部 支部長 池田 廣司

萩支部の活動方針に沿い、「地域資源を生かしたふるさと学習の醸成、学校等の活動支援、会員の募集活動」について取組状況を具体的に説明いただき、特に会員募集については、萩市PTA連合会へのはたらきかけやケーブルテレビを活用した広報活動等の工夫について紹介いただきました。これを受けて、阿西支部、熊毛支部、防府支部の各支部長から、会員増募のための努力や工夫について紹介がありました。

二 事業報告及び協議

- (1) 第18回やまぐち教育の日・第47回教育県民大会柳井大会について
- (2) 第19回やまぐち教育の日・第48回教育県民大会下関大会について
- (3) 第72回日本連合教育会研究大会香川大会について
- (4) 令和元年度山口県教育会学校別会員数について